

2021年9月26日（日）年間第26主日B年

今日の聖書朗読は、嫉妬や不忍耐、躓きを与える事に関して、私達に強い警告を発しています。

ヘブライ人の伝統的な物語の中に次のようなものがあります。ある夕刻、アブラハムが幕屋の外で座っていた時、彼は、高齢の為、また旅の為、疲労困憊している一人の老人が彼の方に向かってくるのを見ます。アブラハムは、急いで駆け出し、老人に挨拶し、自分の幕屋に招待しました。そこで、アブラハムは、旅の老人の足を洗い、彼に飲み物と食べ物を提供しました。老人は、何ら食前の祈りを唱える事も無く、直ぐに食べ始めました。それで、アブラハムは、彼に尋ねました。「あなたは、神を礼拝しないのですか」。年老いた旅人は、答えました。「私は、火だけを礼拝します。他の神を崇める事はしません」。アブラハムは、これを聴くと怒り、老人を肩に背負い、幕屋の外、冷たい夜風の吹く中に、彼を放り出しました。老人が、出発した時、神が友であるアブラハムをお呼びになり、旅人は何処にいるのかをお尋ねになりました。アブラハムは、答えて言いました。「私は、彼を追い出しました。何故なら、彼は、あなたを礼拝しなかったからです」。神は、答えて仰せになりました。「私は、彼が、私に不誠実であったにも関わらず、80年間、彼に忍耐してきた。あなたは、一晩でさえ、彼に忍耐できなかったのか」。私達は、皆、神の子です。それゆえ、今日の福音や第一朗読にあるように、全ての人を愛し、全ての人に忍耐を示さなければなりません。

今日の福音は、私達に、キリスト者としての忍耐について教えてくれます。使徒達は、神の愛と癒しの力を、その唯一の所有者、権威ある分配者としての自分達に、留めおこうとしました。私達は、見知らぬ人が、イエスの名によって、悪霊を追い出している事を、ヨハネがイエスに不平を言い、訴えているのを聴きます。その人は、彼らの仲間でもはないにも拘わらず。彼らは、その人を、イエスに非難して欲しいのです。彼らは、時々、悪霊を追い出す事に関して、失敗する事もありましたので、彼らは、この見知らぬ人に対して、嫉妬心を起こしていたのかもしれませんが。しかし、イエスは、彼らの嫉妬心、猜疑心の故に弟子達を叱り、自らの見識を広げ、様々な所で見出される神の力を認めるよう、招かれます。第一朗読のモーセのように、イエスは、聖職者の合法性の類の、融通の利かない理解に対して、チャレンジされます。イエスは、弟子達が、他者が行っている善業を、共に喜んで欲しいのです。何故なら、全ての善の行為者は、神だからです。イエスは、弟子達の為に、一つの原理原則を宣言されます。「私達に逆らわない者は、私達の味方なのである」。神は、御自分の業の為に、誰でも用いる事がお出来になります。言葉と行いによる救いの良き便りの宣教への招きは、12使徒、或いは70人の弟子達の限定されるものではなく、良き便りに耳を傾け、イエスの名によって、それに答えようとする人には誰にでも及ぶものなのです。教会は、神の業や真理、愛、或いは、癒す力や和解の専売公社ではありません。洗礼は、確かに、私達の特別な務めですが、神の国の任務は、洗礼に限られるわけではありません。他の信仰を持つ人々の交流に際しては、神の業が為されていると、私達に分かる所では何処でも、私達は、それを支持し、協働する覚悟がなければなりません。それは、彼らが、キリスト者であるか否か、信仰者であるか否かに関わりなくです。

教会の中に、エキュメニズムと言う運動があります。エキュメニズムは、イエスが教えられた、キリスト者の忍耐のしるしとして、全てのキリスト教諸派が、一つになる事を目指しています。「全てのキリスト者の一致を回復するとの望みは、キリストの賜物、聖霊の呼びかけです」(カトリック教会のカテキズム 820)。それ故、イエスは祈られました。「父よ、あなたが私の内におられ、私があるあなたの内にいるように、全ての人を一つにして下さい。—中略— そうすれば、世は、あなたが私をお遣わしになった事を、信じるようになります」(カテキズム 820)。2000年の8月6日、バチカンは、『主イエス』と呼ばれる、神学的な文書を発刊しました。それは、エキュメニズムの精神の真の意味を、歪めようとしていた教会の神学者達を正す為でした。この文書の中で、カトリック教会は、全ての宗教は同じである事を示唆する、多元論を拒否しました。一つの宗教が、他の宗教と同等に良いと教える事は、救いの充満は、唯一、聖であり、使徒的であり、普遍的である、教会の中にのみ見出しうるとする、教会の宣教のメッセージを、危険に晒す事になります。この文書は、世界全体に亙る、教会の諸派から、様々な反応を生じさせました。と同時に、この立場は、教会のこれまでの立場と、何ら変わらないという事も、確かなのです。

今日の福音の中で、イエスは、二番目に、躓きを与える者に警告しておられます。「小さな者」は、子供、或いは、信仰における初心者、信仰の点で弱き者を意味しえます。古き信者の躓きとなる行為は、信仰が育ち始めている人々にとっての障害物となりえるという事を、イエスは指摘なさっています。語源的に、躓き、英語のスキャンダルは、ギリシャ語のスカンダロン、「罨の為に用いる、曲がった棒切れ」から派生しています。罨を使って猟師は、ウサギや他の獲物を捕らえます。カトリック教会のカテキズムは、躓き(スキャンダル)を以下のように定義しています。「躓きとは他人を悪に誘う態度、もしくは行為の事です」(2284)。私達は、躓き(スキャンダル)を、何か恥ずべき出来事と見做してきました。しかし、ここでは、躓きを与えるとは、他者が罪を犯すように勇気づける、そのような行為を意味します。イエスが言及しておられる、真に危険な人達とは、宗教的なリーダーの外套を纏うと同時に、反面教師的な証しによって、信仰の弱い人や無知な人を神から遠ざからせ、その人たちに罪を犯させる人達の事です。

私達は、躓きを与える事になる可能性のある行為を避けるようにしましょう。私達は、以下のような時、他者にとっての障害物となります。第一に、他者に係る時、不親切で、不誠実な時。第二に、他者のプライドを傷つけ、自己イメージを壊す事によって、相手を辱める時。第三に、相手の思いを挫き、相手を見無視し、相手を受け入れる事を拒む時。第四に、私達から見て、信仰生活のレベルが十分ではないと思える人が、信仰生活を高めようと葛藤している時に、相手を裁くような態度を取る時。

私達は、また、キリスト者として、忍耐の徳を身に付けましょう。忍耐の徳は、私達が他者の弱さを担うように求めます(彼らが行う悪を非難することなく)。その際、私達は、自らの良心と信仰において誠実さに留まる事が求められます。それは、私達が出会う違いを尊敬する事であり、共通の関心事となるプロジェクトに関して協働する事です。加えて私達が、ある事柄に関して同意できない時でさえ、他の人における良き事を承認する事、及び、私達の愛のこもった言葉と行いを通して、キリストの光がそこに差し込むようにする事です。